

てらええ～友だち つぶっぺえ笑顔



プロジェクト in 東北



第 8 回 活動報告書

主催 NPO 法人 被災者応援愛知ボランティアセンター

でらええ～友だちつぐっぺえ～笑顔プロジェクト

東日本大震災で1,782人もの子どもたちがお父さんお母さんを亡くしました。

(平成27年9月1日厚労省調べ)1学年にすると約85人。

同じ境遇の子どもたち同士が同じ学校の同じクラスになる確率はとても低いことがわかります。そういった背景から、親を亡くした子どもたち同士が語り合える場を作ることは出来ないか。誰にも言えず、ひとりぼっちで抱えている苦しみや悲しみを共有できるような、心を許すことが出来る友だちを作ることは出来ないか、と考えました。

そして、震災ボランティアを経験してきた、遠く離れた名古屋の同世代の愛知の中高大学生が、同じ時間を過ごすことで、誰にも話せなかったことが伝えられる特別な友だちになることは出来るのではないかと、こうして生まれた企画が「でらええ～友だちつぐっぺえ～笑顔プロジェクト」です。



でらええ～=とってもいい(名古屋弁)

友だちを

つぐっぺえ=作ろう(石巻弁)

「名古屋と東北のみんなの心がつながり笑顔でいっぱいになるように」という想いを込めて、愛知の子どもたちが名づけ、東日本大震災でお父さんやお母さんを亡くした子どもたち同士の交流を目的としています。

私たちが住んでいる愛知には、震災のことを忘れず、今も応援活動が続いている多くの学生がいます。そういった愛知県の中学生・高校生・大学生が中心となりこのプロジェクトを進めています。

私たちがこれまでに出逢った東北の子どもたちの中には、

- ・自分の中の悲しみや辛さを話したら、友だちが困ってしまうかもしれないから言えない
- ・お母さんはもういっぱい頑張ってるから、..

と大好きなお母さんへも話せない子もいました。

状況はそれぞれです。だからこそ、このプロジェクトを通じ、子どもたち同士が交流することで、誰にも言えず、ひとりぼっちで抱えこんでいるものを共有できるのではないかと考えております。

そしてまた、名古屋の同世代の子どもたちが一緒に涙を流し、また楽しい時間も過ごすことで、特別な時間と特別な友達をつくってもらいたいなと思っています。

「“でらええ～”は今の自分にとって安心して泣ける場所」そう言って話してくれた東北の学生の言葉は忘れることが出来ません。

名古屋の学生が一生懸命考え準備重ねてきた重ねてきた“でらええ～”は、今まで誰にも話せなかったことを安心して語れ、そして「生きる」ということについて一緒に考え学ぶ時間となっています。





日頃より、愛知ボランティアセンター、でらええ～友だちつづっぺえ笑顔プロジェクトの活動へともにご賛同、ご協力いただき心より感謝を申し上げます。

2011年に団体を設立し、微力ながらも被災地の応援活動を続けています。

「想像すること」、「寄り添うこと」、「継続すること」が愛知ボランティアセンターの応援です。この応援もまた、多くの方の支えがあつてこそだと日々感じています。

「でらええ～友だちつづっぺえ笑顔プロジェクト」は、愛知の中高大学生が主体となって活動をおこなっています。大人のボランティアメンバーのサポートはもちろんありますが、「どうしたら安心して向き合うことができる友だちになることができるのだろう」と考え、すべての企画を愛知の学生たちが1から作っています。

決して簡単ではありません。だからこそ、東北の学生の心に寄り添う、愛知の学生たちでしか作ることが出来ない、想いのこもった企画です。

最後になりましたが、「でらええ～友だちつづっぺえ笑顔プロジェクト」のメンバーへ送り出してくださっている保護者の皆さま、日頃より子どもたちを見守り、サポートしていただき本当にありがとうございます。

これからも遠く離れた場所に暮らす愛知と東北の子どもたちが繋がり、特別な時間を過ごせるように、特別な友だちが作れるように「でらええ～友だちつづっぺえ～笑顔プロジェクト」を続けていきます。

引き続き、応援いただければ幸いです。

第8回でらええ～友だちつづっぺえ～笑顔プロジェクト

藤井文美



いつも、でらええ～友だちつづっぺえ～笑顔プロジェクトの活動を温かく見守ってくださり、誠にありがとうございます。

2013年3月に始動したこのプロジェクトも、今回で8回目を迎えます。この活動は、学生主体であることから、参加できるメンバーは変わらざるを得ません。それでも、このプロジェクトは、東北の学生同士、そして、東北と名古屋の学生のいつまでも続く関係のきっかけになる大切なものだという想いを引き継ぎ、主体となるメンバーが変わった今回も続けることができました。

このプロジェクトで最も大切な時間と言える、学生たちが自分たちの抱え込んで話すことのできなかった辛くて苦しい記憶や想いを話し聞きあう「語る会」。過去の学生スタッフは、全て手探りの状態から始めた為とても不安だったと話してくれましたが、この時間がどれほど繊細なものであるのか、言葉で聞いたとしても簡単に想像し得るものではありません。そのように、全てを言葉や文字で引き継ぐことはできないので、幾ら活動の回数を重ねたとしても、東北の学生がどのように感じるのか、毎回のスタッフそれぞれが真摯に考える必要があると考えます。

今後、このプロジェクトで築いた関係が、「でらええ～で出会った学生の友だち」という枠組み(スタッフや東北の学生の間ではこのプロジェクトを「でらええ～」という名前と呼んでいます)を超えて、いつまでも続くことを願います。そして、その為に、精一杯



■交流会当日のスケジュール(2016年8月6日～8日)

※宿泊場所:石巻市牡鹿半島 民宿めぐろ

8月6日:1日目	
(9:00)	愛知からの参加者十八成浜着・歓迎会等準備
(14:00)	東北地方参加者 十八成浜着 自己他己紹介ゲーム・自己紹介ボード作成
(16:00)	巨大オセロゲーム
(17:00)	東北の子だけの時間
(18:00)	夕食
(19:00)	花火
(20:00)	入浴
(22:00)	就寝
8月7日:2日目	
(6:00)	起床・ラジオ体操(名古屋弁ラジオ体操)
(7:00)	朝食
(8:00)	自己紹介ボード作成
(9:00)	冷やし中華づくり(麺作り・飾り付け)
(12:00)	昼食 オリジナル顔写真入り神経衰弱ゲーム
(13:00)	水鉄砲サバイバルゲーム
(15:00)	すいか割り
(16:00)	入浴
(18:00)	夕食
(20:00)	東北の子だけの時間
(21:00)	語る会 就寝
8月8日:3日目	
(6:00)	起床・ラジオ体操(おらほのラジオ体操)
(7:00)	朝食
(8:00)	自己紹介ボード作成
(9:00)	お別れ会
(11:00)	石巻コモンへ移動・昼食
(15:00)	解散

第8回目の開催となった今回は、

- 名古屋学生スタッフ:企画主体者
- 大人サポートスタッフ:学生のサポート
- 名古屋サポートスタッフ:会議になかなか参加できないけれど参加したいメンバー(※これまで参加したことのある方のみ)

総勢 **26人** で企画の準備を進めていきました！！

“参加してくれる東北の子たちは、どんな気持ちで来るのだろうか？”

と、東北の子のことを想像しながら、会議を重ねていきました。

何のために、誰のためにこの”でらええ～”を開催するのか。

各企画を考えていくうえでとても大事なことです。

ただ楽しいだけではない、特別な時間になるようにと、みんなで一生懸命進めていきました。

名古屋から夜行バスで石巻まで向かいました！！

民宿に到着し、楽しい気持ちと、緊張

と、、、ドキドキしながら東北の友だちを今か今かと待っていました。

バスが見えてきたら、手作りののぼりを大きく振ってみんなでお出迎え☆

東北の子たちもバスの中から笑顔

で手を振ってくれました！！

「ようこそ でらええへ！」

さあ、いよいよ”でらええ～”が始まります！



【自己他己紹介】

いきなりみんなの前で自己紹介をするのって取っつきにくいんじゃないかな？という意見から、まずは4、5人のグループで共通のお題について自己紹介をし合い、その後みんなの前で同じグループの友達が自分のことを紹介してくれるという方法で行いました！！

先にグループで話し合ったことで、お互いの距離感が縮まり、硬い表情をしていた子どもグループの仲間の発表時には笑顔が見えました☆

お題は、「今一番夢中になっている事は？」や「好きな給食のメニューは？」など、その子その子の好みや性格が見えるようなものをお菓子のキットカットのパッケージ裏に書き、くじを引いた後もお菓子を食べながらのアットホームな雰囲気をつくるのが出来ました。



それぞれの顔写真が載った自己紹介ボードも用意し、一緒に過ごした3日間、お互いに見つけた情報をボードいっぱい書き込んでいきました。

【オセロゲーム】

直径 30 cmと、直径 1m の段ボールで作った大きなオセロをひたすらひっくり返し、枚数が多い方が勝ち！と言う、単純明解で体を動かすゲームです。



常に自分達の色に変え続けなければならず、みんなが休むヒマがなく動き続ける状態、動きながらチームごとに違う作戦を立てたり指示を出したり、小学生でも ルールが分かりやすくみんながゲームに入り込め、距離がグッと縮まった交流になりました。自然に名前前で呼びあえて指示を出したり出来ていて、次回もまたやりたいと思える様なゲームになりました。

前半 2 分、後半 3 分というゲーム時間を設定していましたが、これがなかなかの体力勝負！

「まだあと1分もあるの～？もう動けな～い！」など悲鳴に近い声があったりして…

夢中でオセロゲームをした後、みんな一様に足が筋肉痛と言う…翌日まで続きました(笑)

【花火】

手持ちの大きな線香花火が好評でした！

想定よりも手持ちの

花火が好評で、打ち上げ花火や噴き出し花火が残ってしまうほど。

みんなが同じ花火に同時に火をつけ

「ねえねえ、写真撮って



みんなと一緒に同じ物を楽しみたいのかなあと感じました。

夕食前後から、距離が近くなったかな？と感じた子たちが、花火でもずっと一緒にいて、言葉は少なくとも大事な時間を過ごしているなと感じました。

打ち上げ花火が上がると、同時に歓声も上がり、子どもたちの笑顔を見て嬉しく思いました。

岡崎の花火師さんが子どもたちが見て楽しめる様にと華やかなのを選んでくださったものでした。たくさんの方に支えられ、みんなの応援の想いが詰まっています。

【でらええ～麺作り】

みんなで冷やし中華を麺から作ろう！という発案から、でらええ～オリジナル麺、“でらええ～麺”を粉からコネコネして作りました！イチニイチと声をかけながら生地をこね踏んだり、オクラを切ったり、トマトを切ったり…



「もう4年生だからできるもん。」「家庭科の時間に包丁使った事あるもん」と進んで野菜を切ったり、麺を踏んだり。仲良しになった小学生たちは、まるで姉妹のようでした。

初めて包丁を握った小学生男子は大学生に見守られながらひとつひとつ真剣に。



久しぶりに参加した高校生は、歳の近い女の子とお話しながら、少しずつみんなに馴染んでいきました。

お昼にはそれぞれの班で、でらええ～麺を作った過程の話や出来栄え、手作りダレの味を楽しみながら、和やかな時間を過ごしました。



【特製でらええ〜トランプでの神経衰弱】

名前と顔を覚えられるようにと、オリジナル特性巨大トランプを制作しました！他己紹介と同じグループで、チーム対抗での神経衰弱！

簡単に当ててしまうのでは？と思っていましたが、何度も同じカードをめくってしまったりして難しかったみたいです。



さっき出たやつだ！あっちにあったよね？？と、グループ内での話し合いも増えて

コミュニケーションもたくさんとれました。自然と大きな歓声が出て大変盛り上がりました！特に小学生は、自分のカードが出ると欲しくてたまらなかったらしく、「これは僕のカード！私のカード！取らないで〜」といった感じで身を乗り出す様な格好で全力で取りにいってました！！自分のカードが取れると満面の笑み！

他の人に取られてしまうと自ら獲得したトランプと交換してまでほしいと他のグループに交渉していました☆

グループとグループの間でも、情報戦を仕掛けたりして、グループを越えて自然に会話が沢山生まれていました。

思った以上にコミュニケーションをとることが出来たゲームでした。



【スイカ割り】

大勢集まった時にしかなかなかできないスイカ割り！！楽しみにしていた子も多く、「今からスイカ割りをやります！」の声に、「やった！やった〜！」と集まってきてくれました！



まず初めにスイカを抱っこしての重さ当てクイズ☆

初めて丸ごと1個のスイカを持ったという子もいて、「うわ、何キロか全然わからない！」と大はしゃぎ(笑)しかし、ピタリと当てた子もいました！！その後は小学生を中心にスイカ割りを楽しみました。

みんなで周りから声をかけて誘導しました。面白がってウソの誘導する人(笑)命中してもなかなか割れず、何度もチャレンジしていました。

スイカに亀裂が入ったところで終了！

東北学生のお姉さんが、大奮闘した小学生たちに切り分けてくれました！！スイカもこうやってみんなで食べるとさらに美味しかったです。

【水鉄砲】

夏のでらええ〜では毎年恒例の水鉄砲対決！！

各チームで色違いのハチマキを巻き、頭に3本の金魚すくいのポイを挟み(チームボスは5本もつけました)、制限時間内に水鉄砲を撃ち合い、破れなかったポイがたくさん残っているチームの勝ち！！

お互いに遠慮なく水を掛け合い、思いっきり走り回ることによって、緊張感やストレスなどを払拭しました！！

仲間チーム内で敵の後ろに回り込んで撃とうとか、敵が来るのを待ち構えようなどの作戦立てたり、敵で打ち合って盛り上がり

たり、小学生が特大のライフルを担いでいたり、大人も子どもも関係なく遠慮なく打ち合ってお互いにはしゃげて、夏の風物詩らしく外で子どもたちの声



が心地よく響いていました。

そして、撃ち合いが終わるころには全員お揃いで着ていたでらええ〜オリジナルTシャツはピシヨピシヨに…。

順位が決まり、ご褒美に手作りのメダルを渡しました。

そのメダルを見て、「わぁ〜かわいいメダル！」と喜んでくれました。水鉄砲後に撮った集合写真には、チーム順位関係なく、み



んなの笑顔が溢れていました！！

【語る会】 ※個人情報につながってしまうためなかなか内容を鮮明にお伝えできません。申し訳ありません。

みんなで思いっきり遊んだあと、最終日の夜に「語る会」というものをいつも行っています。

でらええ～の様々な企画の中でメンバーが最も大切にしている時間です。

「語る会」は、東北の学生と名古屋の学生が交互に輪になって座り、自分の気持ちや、お互いの気持ちに真剣に向き合う時間です。

無理に話さなくてもいい。話したくなった時に話せばいい。聞いているのが辛くなったら部屋から出てもいい。自分の話したいことや、素直な気持ちを話してほしい。そのことをみんなで確認し始まります。

例え話すことができなくても、全員がお互いの気持ちを一生懸命受け止めようという姿勢になっているその場、時間を共有することが大切だと思っています。

今回は、宿泊室の一つでおこなったからなのか、いつもよりみんなとの距離が近く感じられました。

東北の学生も、名古屋の学生も、一生懸命自分の中にある気持ちを話しました。

遊んでいた小学生たちも、ほんの少しだけ語る会に参加してくれました。

今回で語る会は8回目になりましたが、語る会の話してくれる形、内容、雰囲気などは、少しずつ変わってきているように感じます。

今回は、対話のような形で進んでいきましたが、そうでなければ話したかったことを話せなかった、と後で言ってくれた東北の学生がいました。

話している途中で気持ちが溢れて涙が止まらなくなってしまった東北の学生の背中を、隣でさする名古屋の学生もいました。

月日と一緒に兵隊が変わっていても、お互いに支え合いながら、受け止め合いながら、語る会という繊細な時間を共有し、東北も名古屋も関係なく、お互いの気持ちを強く結びつける語る会になったと思います。

語る会の後は、ウノやランプがで遊ぶ子もいれば、外で星空を眺めながらお話をする子もいて、思い思いに最後の夜を過ごしました。

小学生の子が、「ずっとでらええ～に参加したい。私が死んじゃうまでずっと続けてくれる？」と言ってくれたのが忘れられません。

そして、隣にいた子が、「一生ってことは、でらええ～の皆って家族みたいだね！！」と言ってくれたのです。

東北の学生がどれほどでらええ～という場を、でらええ～で出逢った友だちのことを必要だと思ってくれているかが伝わってくる、とても幸せな時間でした。

いよいよ最終日。仲良くなった友だちと、もうすぐお別れです。

【寄せ書き】

今までは名古屋学生がサプライズで用意していたメッセージ寄せ書き。

でもさっと東北の子から東北の子へも贈りたいメッセージはあるよね、そんな話し合いから、今回はあえて同じ部屋の中で全員が、色紙へのメッセージを書きました。

色紙は、学生スタッフと名古屋サポートメンバーが事前に作成し、同じものは1つもない特別な色紙になりました。



【石巻コモン】

震災で被災された方や、ボランティアがきっかけで出店されている方々が集まって形成されている石巻橋通りコモン。

お店の方々の想いが詰まった名物の石巻焼きそばや、フレンチトーストなどをみんなでシェアしながら、コンテナハウスにて食事しました。

空き時間には、のんびりとカードゲームをしたり雑談したり、写真を撮ったりと思い思いの時間も過ごしました。

全員で過ごすのはここが最後なので、時間の使い方に悩みました。企画を考えようか否か、最終的には、あえて何もせず、それぞれがお別れの時間まで自由に友だちと過ごしました。

【最後に】

今回参加してくれた東北の学生は、全員リピーターと言われる2回目の参加以上の子でした。

3年前にでらええに参加してから、本当はずっと参加したいと思っていたけれど、高校3年間は部活を一生懸命がんばろうと決めていたので来られなかった。

だから、今回はどうしても行きたくてお母さんに無理を言って、

「帰ったらお盆で親戚が集まる時忙しいお母さんの手伝いをする事、進学のこともしらさずする」約束で参加したという女子高校生もいました。

家業を継ぐための大学へ進む事を決意した男子高校生もいました。

夢の職業につくために大学での実習や授業、就活をひかえていて今回のでらええが最後の参加になるかもしれないと言話してくれた大学生もいました。

夜の自由時間に、今回は都合で参加できなかったけれど過去にでらええメンバーであった名古屋学生の子に、ラインのビデオ通話をかけてみんなの様子を見せながら「こっちは楽しいよ～」と仲良く長距離電話をしていた子もいました。

でらええが終わって名残惜しかったのか、帰り道の車内から、大人スタッフの携帯に電話をかけてきて「今どこ？何してる？今度はいつ会えるの？また会える？」など他愛のない会話を延々と2時間話し続けた子もいました。

年齢は違っても、それぞれにでらええという活動が大好きで、そこで待っていてくれる名古屋の学生に会いたくて参加してくれています。

東北の子たちにとって、でらええで過ごす時間は、年齢や環境は違ってもそれぞれに、でらええを大切な場所として想ってくれていることが伝わってきます。

今回のでらええ～友だちつぐっぺえプロジェクトを通じ、

たとえ遠く離れていてもこれからも繋がっていたい、またでらええ友だちに会いに来たい、と思ってもらえるような心の繋がりが出来ていたら嬉しいなと思います。

最後になりましたが、【でらええ～友だちつぐっぺえ～笑顔プロジェクト】は、ワンコイン・サポーターズ 20,000 人プロジェクトを通じた全国 6,115 人のサポーターさん、名古屋の学生、ボランティアの皆さん、そしてスポンサーであるリゾートトラスト(株)の応援があり続けられています。本当にありがとうございます。

一人でも多くの子どもの心に寄り添える、笑顔になれるプロジェクトになれるよう引き続き応援よろしくお願い致します。



今回参加したお子さんのお母様お二人より、お手紙をいただきましたのでご紹介させていただきます。

※ご本人に掲載許可をいただいております。

😊 でらええの皆様 😊

こんにちは。
いつもお世話になっております。

初めて参加させていただいた2年生の夏
キラキラした笑顔で帰ってきた夏希の姿を
今でも覚えています。私達の心配も不安も
どこかへいってしまった瞬間でした。
あれから毎年参加させていただくようになり
夏希の楽しみの一つとなっています。

震災当時、まだ年長だった夏希にとって
心の奥深くに多くの傷ができたと思います。
そんな中、でらええに参加し、スタッフの皆さんと
過ごす3日間。親元から離れて同じ経験をした
皆さんと共に笑ったり、胸の内を語り合ったり、涙したり、
辛く悲しかった震災からも目を背けずに強く優しく成長している
のも、スタッフの皆さんの暖かい気持ちや夏希の心に届いて
いるからだと思っています。

これからも夏希の笑顔と成長をでらええの皆さんと一緒に
見ていけたらな... 😊 と思います。

本当にありがとうございます。

夏希の母より...

でらええ～に参加しての母目線で…

とにかく参加させてもらって、本当に感謝の気持ちでいっぱいです♪

帰ってきた日…とても楽しかったみたいで、嬉しそうに話してくれました

最初は緊張したみたいで、具合が悪くなったみたいだけどね(*^^*)

自分と同じような性格の人がいたり、自分の気持ちを分かってくれる人がいたりで元

気をもらったって喜んでました(^ω^)彩季の友達には、なかなか心を許せる人はいない

みたいです(.i _ i.)実は去年の2学期、登校拒否になってスゴイ大変だったんです！

3学期に入って何とか行けるようになったんですけど全然楽しそうじゃなかったんです

…そんな中でらええ～でした！帰って来た時の笑顔を見て、親としてホッとしたの

と、話を聞いてこちらまで楽しくなりました！それからちょっと成長したような気がします

(*´ω`*)♪本当にありがとうございました(*・ω・*)*_ _)ぺコリ 震災の時…彩季はとて

もいい子でした！自分も父親も家も失ったのに…私があまりにも崩れ落ちてしまったの

で、私を守るのに必死で…そんな彩季を私はあまり見てあげることが出来ませんでした

た！たぶん泣くことも出来なかったかもしれません…でらええ～に参加した事が震災

後、1番楽しかったかもしれません！

本当にありがとうございました♪

これからも何かあればよろしくお願いしますm(__ __)m

東日本大震災 震災孤児遺児応援

ワンコイン・サポーターズ 20,000 人プロジェクト

サポーター大募集

このプロジェクトは、東日本大震災発生時にお母さんのおなかの中にいた赤ちゃんをふくめ、すべての震災孤児遺児の皆さんが高校を卒業する 2030 年まで、孤児遺児の皆さんに応援金をお贈りする活動です。

あの震災でお父さん・お母さんを亡くした子どもたちは 1,782 人。愛知ボランティアセンターはこの子どもたちを応援するために、2011 年 4 月からこの取り組みを始めました。

19 年間継続して応援するために、サポーターの皆さまの銀行口座から、私たちの銀行口座へ、毎月ワンコイン（1 口 500 円）をお送りいただきます。

サポーターの皆さまからお預かりした応援金とお気持ちを、年に 1 度、愛知ボランティアセンターが直接子どもたちに届けます。

どなたでも無理なく被災された方々の応援を続けることができます。それがワンコイン・サポーターズ 2 万人プロジェクトです。

2016 年 6 月 30 日現在で、**6,115 人**のサポーターさんから **10,172 口**の応援金をお預かりし、お贈りしています。

応援金給付実績

年度	初回送金日	一人当たり応援金	応援金申請者数	応援金送金総額
2011 年度	2012/3/30	70,000 円	947 人	66,480,000 円
2012 年度	2013/6/28	60,000 円	1,064 人	64,670,000 円
2013 年度	2014/6/30	60,000 円	970 人	66,905,166 円
2014 年度	2015/6/30	70,000 円	839 人	59,170,000 円
2015 年度	2016/6/30	80,000 円	755 人	60,780,000 円

※授業料の公私格差を鑑み、私立高校へご通学の方を対象に 1 万円多く送金させていただきました。

※これまでに、リゾートトラスト(株)より総額 180,335,265 円のご寄附をいただいております。



私たちは、3月11日を忘れません。

震災孤児遺児の未来のために 続ける応援、会員様とともに・・・

〈リゾートトラストの取組〉

東日本大震災で被災された孤児遺児を支援するため、全ホテルの売上の一部を2011年より継続して寄付しております。

